

別冊（報告第 14 号）

令和 4 年度

教育委員会の事務に関する点検・評価報告書

令和 5 年 9 月

大台町教育委員会

目 次

| | |
|-----------------------------|----|
| I 趣旨 | 1 |
| II 点検・評価の対象 | 1 |
| III 点検・評価の実施方法 | |
| 1. 自己評価（達成度）の判断基準 | 1 |
| 2. 実施スケジュール | 1 |
| IV 事業別の成果と点検・評価 | |
| 1. 教育委員会事務の成果と点検・評価 | 2 |
| 2. 高等教育段階の子育て支援策に係る成果と点検・評価 | 3 |
| 3. 学校教育環境の整備等に係る成果と点検・評価 | 4 |
| 4. 学校教育の成果と点検・評価 | 8 |
| 5. 生涯学習の成果と点検・評価 | 20 |
| 用語の説明 | 28 |

I 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき、すべての教育委員会は、毎年度の教育に関する事務の管理及び執行状況について、点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに一般に公表することとなっています。

どのような点検・評価を行うか、また報告書の様式、議会への報告の方法などについては、国が基準を定めるのではなく、各教育委員会がそれぞれの実情を踏まえて決定することになっています。

点検・評価の実施を通じて教育施策を検証することにより、課題等を明確にし改善を図りながら、教育行政の推進に努めます。

II 点検・評価の対象

点検・評価は、教育委員会が令和4年度に実施した事務・事業のうち、学校教育の方針や生涯学習の方針等に掲げた主な取組を対象としています。

III 点検・評価の実施方法

1. 自己評価（達成度）の判断基準

点検・評価については、令和4年度に実施した主な取組の内容、実績等を次の区分により自己評価しました。

点検・評価の実施方法等については、随時改善を行い、より良い点検・評価の形を求めていきます。

| 目標と成果・実績とを比較・勘案して | | 達成度 |
|-------------------|-----------|------------|
| A | 達成している | 90%～100%達成 |
| B | ほぼ達成している | 70%～89%達成 |
| C | やや達成していない | 50%～69%達成 |
| D | 達成していない | 49%以下 |

2. 実施スケジュール

前年度に実施・推進した施策等について点検・評価を行い、議会へ報告及び町民への公表を行います。

- 4月～ 7月 教育委員会での点検・評価
- 8月 教育委員会まとめ
- 9月 議会への報告
- 10月～11月 町民への公表（町ホームページ）

IV 事業別の成果と点検・評価

1. 教育委員会事務の成果と点検・評価

| | |
|-------|--|
| 事務事業名 | 1－1 教育委員会の運営 |
| 事業の目的 | 教育委員会活動の充実 |
| 事業の実績 | 主な取組等 ・総合教育会議 1回 ・教育委員会 8回 ・研修会 1回 ・学校訪問 1回 |
| 事業の概要 | 会議は、会議規則に則って招集し適正に議事を運営し、会議録を作成した。 多気郡教育委員会連合会主催の研修会に参加し、タブレットを活用したICT教育について、実技も行いながら研修を行った。 感染症対策のため、学校行事等への出席をできる限り控えたが、11月に学校訪問を実施し、学校運営について情報共有を図った。 |
| 今後の対応 | 研修会への参加は、感染症対策が緩和され従来通りの形で実施される予定であり、委員の自己研鑽や情報共有の機会の確保に努める。 |
| 評価 | B |

2. 高等教育段階の子育て支援策に係る成果と点検・評価

| | |
|-------|--|
| 事務事業名 | 2-1 高等学校等生徒通学費補助金・大学等入学支度金 |
| 事業の目的 | 高等教育の修学における保護者の経済的負担を軽減し、子育て環境の整備と将来を担う人材の育成を図る。 |
| 事業の実績 | <p>主な取組等（補助金交付実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校等生徒通学費補助金 45人 1,631,200円 ・大学等入学支度金 9人 700,000円 |
| 事業の概要 | 平成31年から所得制限を設けて実施しているが、令和3年度に所得制限を緩和し、多くの方に補助金を交付することにより、保護者の負担軽減を図っている。 |
| 今後の対応 | 令和5年度から更に支給要件の緩和を図り、支給対象者の拡充に努めていく。 |
| 評価 | A |

3. 学校教育環境の整備等に係る成果と点検・評価

| | |
|-------|--|
| 事務事業名 | 3-1 小中学校施設整備事業 |
| 事業の目的 | 小中学校施設を改修し、児童生徒の安全で安心な教育環境を確保する。 |
| 事業の実績 | <p>主な工事等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校トイレ洋式化工事 17,114,900 円 ・中学校トイレ洋式化工事 7,733,000 円 ・三瀬谷小学校入口舗装工事 1,082,400 円 ・大台中学校防水改修工事設計業務委託料 5,412,000 円 |
| 事業の概要 | <p>新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、町内小中学校のトイレ洋式化を進めた。</p> <p>通学時の危険防止のため、三瀬谷小学校入口の舗装工事を行った。</p> <p>その他、老朽化による施設・設備の修繕や更新等を実施した。</p> |
| 今後の対応 | 学校施設・設備の老朽化対策として、学校施設長寿命化計画に沿って整備を進める。令和5年度から、大台中学校の屋上等防水改修工事を進める。 |
| 評価 | A |

| | |
|-------|---|
| 事務事業名 | 3-2 学校給食事業と食育の推進 |
| 事業の目的 | 安心、安全な学校給食を提供するとともに、健康的な食生活や食文化、食材の旬・産地・生産者等について、理解と関心を深める。 |
| 事業の実績 | <p>主な取組等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理業務委託料 57,801,040 円 ・給食施設の維持改善 1,859,220 円 ・産地米購入補助 238,169 円 |
| 事業の概要 | <p>学校給食の充実のため、地産地消を推進し、食育にも力を入れている。</p> <p>調理業務は、専門業者への委託により実施する方法へ順次移行してきた。</p> <p>給食施設の衛生環境確保や設備等の適正な維持管理に必要な更新や修理を実施した。</p> <p>産地米の購入については、郡内の会社から多気郡産米を購入し、学校給食会から購入した場合の差額を補助した。</p> <p>栄養教諭と各学校が連携し、食事について正しい理解を深め、望ましい食習慣を養った。地場産物を使った献立の提供に加え、小学校における稲作の体験学習等により、食についての理解と関心を深めている。</p> |
| 今後の対応 | <p>地元産の食材確保のため、関係課、関係機関と連携を進めてきたが、流通量や価格などの課題がある。また、食材の高騰が懸念されるため、注視する必要がある。</p> |
| 評価 | A |

| | |
|-------|---|
| 事務事業名 | 3-3 学校給食費負担軽減事業 |
| 事業の目的 | 新型コロナウイルス感染症の影響等で保護者の環境が大きく変化した中で、給食費の全額を補助することにより、保護者の負担軽減を図る。 |
| 事業の実績 | <p>主な取組等（補助金交付実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生 335名 16,173,875円 ・中学生 170名 9,350,000円 |
| 事業の概要 | 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金、ふるさと応援基金を活用し、学校給食費の全額を補助した。 |
| 今後の対応 | 令和5年度以降も継続して全額補助を実施していき、保護者負担の軽減を図る。 |
| 評価 | A |

| | |
|-------|--|
| 事務事業名 | 3 - 4 修学旅行費用助成事業 |
| 事業の目的 | 子育て支援として修学旅行費の一部を補助することにより、保護者の負担軽減を図る。 |
| 事業の実績 | 主な取組等（補助金交付実績） <ul style="list-style-type: none"> ・小学生 68名 759,445円 ・中学生 59名 1,888,000円 |
| 事業の概要 | 修学旅行に係る保護者負担経費の1/2を補助（上限額小学校12,000円、中学校32,000円）し、保護者の負担軽減を図った。 |
| 今後の対応 | 補助率は1/2、補助上限額は小学生12,000円、中学生32,000円を継続し、保護者負担の軽減を図る。 |
| 評価 | A |

4. 学校教育の成果と点検・評価

| | |
|-------|---|
| 事務事業名 | 4-1 確かな学力の向上 |
| 事業の目的 | <p>基礎・基本や自ら学び自ら考える力をつける。 一人ひとりの発達状況や学習状況を的確に把握し、指導することで、子どもをの力をより伸ばす。</p> |
| 事業の実績 | <p>主な取組等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標準学力検査等の実施と分析 ・小中学校連携教育の推進 ・新学習指導要領に基づく教育活動の展開 ・読書活動の充実 ・一人一台端末の活用 |
| 事業の概要 | <p>各校とも「標準学力検査（CRT）」を実施し、児童生徒一人ひとりの「強み」「弱み」を把握し、個に応じた指導に役立てている。</p> <p>また、小6、中3が対象の「全国学力・学習状況調査」と県教育委員会が年2回実施する小5、中2が対象の「みえスタディ・チェック」の結果を分析し、学年毎に「強み」「弱み」を把握し、さらに校内研修会において全職員が結果を共有するなど、学校全体で学力向上の取組（授業改善、授業形態、支援のしかた、補充学習等）に努めている。</p> <p>例えば、ペア学習やグループ学習等による授業で話す力、聞く力の向上を目指した取組や、教科によっては「習熟度別授業」や「TT」による教科指導を行っている。</p> <p>また、標準学力検査等による学力の状況を保護者に伝え、家庭との連携による学力向上の取組に努めている。</p> <p>「小中学校連携教育推進事業」の取組として、児童生徒一人ひとりの記録を作成し、進級・進学時に引き継ぐことで、児童生徒の学力を系統立てて把握するほか、各校の担当者が集まる推進会議を開催し、各校における取組の交流、学校区における小中学校間での交流授業参観など、小中学校間の連携を深めている。</p> <p>また、学力向上につなげるため、各校が実情に合わせ作成した「家庭学習の手引き」を児童生徒・保護者に示し、家庭学習の定着に努めている。「小中学校連携教育推進事業」では、家庭学習のあり方についても交流している。</p> |

| | |
|--------------|---|
| | <p>全ての教員が、新学習指導要領に基づいた「主体的・対話的で深い学び」の構築のため、指導主事の指導・支援のもとで授業研究を行い、「何ができるようになるか」「何を学ぶのか」「どのように学ぶか」という視点を大切に授業改善に努めている。</p> <p>各校とも、児童生徒の言語活動を豊かにするための方策の一つとして、読書活動の充実に取り組んでいる。「朝学活」の時間に、10～15分の時間をとって「読書タイム」を設定している。また、学校図書館の充実のため、各校に図書館司書を週1日もしくは1日半派遣している。授業に関係する本の紹介や準備などの学習支援活動をはじめ、効果的な図書の展示や整理を行うことで、児童生徒が学校図書館を利用する機会の増加につなげている。</p> <p>一人一台端末と電子黒板を連動させることで、児童生徒の意見を視覚的に示して交流し、対話を深めるツールとして活用している。また、学習支援アプリを利用し、一人ひとりの習熟度や発達の段階に応じた学習を進めている。インターネットを使った調べ学習では、主体的に情報を収集し、学習課題の解決に必要な情報を取捨選択する過程の中で、自分の考え方をまとめていける学習を進めている。</p> <p>また、インターネットの正しい利用方法や危険性についての理解を深めるとともに、情報モラルについては、道徳科や人権学習の中でもインターネットやスマートフォンのマナーや危険性について取り上げて学習している。</p> <p>中学2年生の「職業体験学習」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業所へ出向いての体験学習は実施できなかった。代わりに地域の方に講師を依頼し職業に関する学習会を行い、仕事の楽しさや厳しさについて学んだ。</p> |
| <p>今後の対応</p> | <p>「全国学力・学習状況調査」等の結果を把握・分析し、何年生のどの内容でつまづいているのかを学校全体で共有し、組織的、計画的な授業改善をさらに進める。</p> <p>また、読み聞かせやブックトークを継続し、読書習慣の定着や家庭と連携して学習習慣の定着に努める。</p> |
| <p>評価</p> | <p>B</p> |

| | |
|-------|---|
| 事務事業名 | 4-2 外国語指導助手（ALT）の配置 |
| 事業の目的 | 児童生徒の英語コミュニケーション能力の育成と異文化理解・国際理解の深化のため、小中学校に外国語指導助手（ALT）を配置する。 |
| 事業の実績 | 主な取組等（配置実績） <ul style="list-style-type: none"> ・小学校 2名 6,726,000円 ・中学校 2名 7,480,000円 |
| 事業の概要 | <p>ALTは、小学校では外国語活動、外国語科、中学校では英語科の授業において教員の指導補助を行うほか、学校行事や休み時間においても児童生徒とふれあうなど、児童生徒が英語に親しむことができるよう取り組んでいる。また、異なる文化や生活習慣の違いなど、多くのことを楽しく学ぶことができている。</p> <p>小学校に2名のALTを配置し、3・4年生で外国語活動を年間35時間、5・6年生では外国語科として70時間取り組み、中学以降の英語学習の土台づくりを行っている。中学校では2名のALTを交替で常置し、ネイティブの発音に触れさせることができている。</p> |
| 今後の対応 | <p>ALTを配置することで、小中学校において生きた英語に触れる機会を提供し、児童生徒は外国の言葉や異文化への理解を深めることができている。</p> <p>引き続き4名のALTを配置していく。</p> |
| 評価 | A |

| | |
|-------|--|
| 事務事業名 | 4-3 小中学校におけるICT教育の支援 |
| 事業の目的 | ICT環境を効果的に活用した授業の活性化と充実を図るため、ICT支援員の派遣などにより小中学校を支援する。 |
| 事業の実績 | <p>主な取組等（実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT支援員1名 のべ234日 ICT支援員派遣業務委託料 8,140,000円 ・ ICT活用教育アドバイザー（非常勤）1名 のべ102日 ICT活用教育アドバイザー人件費 826,045円 |
| 事業の概要 | <p>ICT支援員を各小中学校に順に1日派遣して、学校におけるICT環境の整備、ICT機器やソフトウェアの効果的な活用アドバイス、授業におけるICT活用のための教員への提案などを行い、一人1台端末を活用した授業の構築を支援した。</p> <p>また、ICT活用教育アドバイザーを教育委員会事務局に非常勤で配置し、ICTを活用した授業実施や校務での活用に係る助言のほか、各校年3回のICT研修会、必要に応じて学校を訪問して支援活動を実施した。</p> |
| 今後の対応 | 小中学校における情報化教育推進には、ICTに精通し、教員を支援できる人材の配置は不可欠であり、配置を継続したい。 |
| 評価 | A |

| | |
|-------|--|
| 事務事業名 | 4-4 人権を基本に据えた教育活動の展開 |
| 事業の目的 | すべての教育活動を通して、豊かな感性と科学的なもの の見方・考え方を養い、確かな人権感覚を養う。 |
| 事業の実績 | <p>主な取組等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育カリキュラムの作成と実践 ・教職員の人権意識向上のための校内研修の実施 |
| 事業の概要 | <p>各校で人権教育のためのカリキュラムを作成し、これを基 にして人権学習に取り組んでいる。</p> <p>小中一貫し9年間を見通したカリキュラムとなるよう学校 間で連携して実践している。</p> <p>宮川中学校区の人権フォーラムでは、中学3年生による人 権作文の発表、劇による問題提起後にグループでの意見交流 を行った。また、小学6年生がLGBTQについて学んだこ とを発表し、意見交流を行った。大台中学校区では、新型コ ロナウイルス感染症対策のため、小中学校の児童生徒が交流 する形でのフォーラムは開催を見送った。大台中では、人権 作文の発表やバリアフリーについての意見交流を実施した。</p> <p>各校とも、年間研修計画の中に「人権教育」の研修を組み 込んでいる。授業研究での取組、外部講師を招いた研修会、 部落問題をはじめとする人権問題に係る学習会などで、教職 員の人権感覚を磨く取組を行った。また、授業研究について は、県教育委員会人権教育課から指導主事の派遣を依頼して いる。</p> |
| 今後の対応 | 各校が連携し、小中9年間を見通して人権尊重の意識と実 践力を養う。授業では、これまでの人権教育の記録を綴った 冊子を活用していく。 |
| 評価 | A |

| | |
|-------|--|
| 事務事業名 | 4－5 心の教育の推進 |
| 事業の目的 | よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。 |
| 事業の実績 | <p>主な取組等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりが尊重される集団づくり ・学校教育活動全体を通じた道徳教育の推進 ・児童生徒の規範意識の育成 |
| 事業の概要 | <p>仲間のことと考えられる子どもの育成を目指し、仲間づくりを通して、集団で活動できる子どもづくりに取り組んだ。</p> <p>小学校では、縦割り班での清掃、運動会、集会等の活動を通じて、学年を越えたつながりを育み、理解し合える関係の構築に取り組んでいる。中学校では、体育祭、修学旅行等の行事や生徒会活動、委員会活動等における自主的な活動を推進することで、リーダーの養成や認め合える仲間づくりに重点をおいて取り組んでいる。</p> <p>道徳教育の推進は、全体計画、年間指導計画を作成し、学校生活全体を通じ、児童生徒が活動するすべての場で道徳性を養えるよう取り組んでいる。また、各校において授業研究を実施した。</p> <p>家庭において基本的な生活習慣を確立するために、保護者に啓発するとともに、小学校においては、児童会が中心になって目標を掲げ、あいさつ運動やルールを守ることの大切さに取り組んでいる。中学校では、学校生活のルールやマナーのほか、基本的な生活習慣の大切さについて継続して指導している。生活習慣の課題については、懇談の場や学校通信で保護者に理解と協力を求めている。</p> |
| 今後の対応 | <p>規範意識は、家庭におけるあいさつや服装等のしつけ、規則正しい睡眠や食事等の基本的な生活習慣に関する教育が土台となるため、学校と家庭の連携に努める。</p> |
| 評価 | B |

| | | | | | | | |
|-------|--|-------------|-----|-------------|-----|----|------------|
| 事務事業名 | 4－6 特別支援教育の充実 | | | | | | |
| 事業の目的 | 支援を要する児童生徒にきめ細やかに学びを支援する。 | | | | | | |
| 事業の実績 | <p>主な取組等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援員の配置 <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>小学校</td> <td>18名</td> <td>23,745,505円</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>6名</td> <td>9,164,640円</td> </tr> </table> ・校内体制の整備 ・教育相談の充実 | 小学校 | 18名 | 23,745,505円 | 中学校 | 6名 | 9,164,640円 |
| 小学校 | 18名 | 23,745,505円 | | | | | |
| 中学校 | 6名 | 9,164,640円 | | | | | |
| 事業の概要 | <p>特別支援学級設置校に学習支援員を配置し、どの子ども安心して学べる授業づくりと支援体制づくりのため、町単独で経費負担し、24名の学習支援員を小中学校に配置し、学校生活や学習活動のサポートを行っている。</p> <p>各校では特別支援教育コーディネーターを中心として、児童生徒の個別の支援計画等を作成している。また、学習支援員を含めたスタッフミーティングを行い、それぞれの児童生徒について情報共有を図っている。また、普通学級に発達障がいをもつ児童生徒が在籍していないかを観察し、必要に応じて検査を受けるように保護者に働きかけている。</p> <p>保育園、小学校、中学校がそれぞれに連携して早い段階で児童生徒の状況を把握し、特別支援教育の体制づくりにつなげている。また、連絡帳、面談、家庭訪問等で保護者と常に情報を共有して支援、指導に当たっている。</p> <p>スクールカウンセラーや奥伊勢教育支援センターのスーパーバイザーと連携し、教育相談の充実を図っている。また、特別支援学校等に訪問を依頼し、指導助言を受けた。</p> | | | | | | |
| 今後の対応 | <p>支援を必要とする児童生徒が増加傾向にあり、一人ひとりの状況に応じた取組が求められている。引き続き、関係機関、保護者と連携を図るとともに、学習支援員の適正配置に努める。また、特別支援教育コーディネーターを中心に、小学校と保育園の連携をさらに深めたい。</p> | | | | | | |
| 評価 | A | | | | | | |

| | |
|-------|--|
| 事務事業名 | 4－7 体力の向上と健康教育の推進 |
| 事業の目的 | 心身の健やかな成長を目指し、運動やスポーツに親しむ資質や能力を育むとともに、食育や健康教育の充実を図る。 |
| 事業の実績 | <p>主な取組等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びを通しての体力づくりと部活動 ・家庭と連携した学びを支える生活づくり ・食育と健康・安全教育の充実 |
| 事業の概要 | <p>運動の楽しさや喜びを味わわせ、運動やスポーツに親しむ習慣を身に着けられるよう、小学校では、縦割り班での活動で、遊びを通しての体力づくりや、休み時間に仲間とともに身体を動かす楽しさを味わう遊びの時間を大切にしている。また、スポーツテストで児童の体力を把握しながら運動能力や体力の向上に取り組んでいる。中学校では、部活動においてそれぞれ工夫を凝らし、生徒が主体的に練習に取り組んでいるが、生徒数の減少により、開設できる部活動数が限られている。大台中学校においては、今後の生徒数の減少を勘案し、段階的な部活動数の見直しに着手した。</p> <p>各校では、アンケート調査結果を共有するほか、普段から児童生徒の学習面や生活面について保護者との情報共有に努めている。また、懇談、電話連絡、家庭訪問等で家庭と学校が連携し、基本的な生活習慣の確立に取り組んでいる。</p> <p>栄養教諭を中心に、給食指導と食教育に取り組むほか、健康・安全教育では、命の大切さについて考え学ぶための助産師による「いのちの学習」、医師による「たばこの害の学習会」、歯の健康に関心を持つための歯科医による歯科指導などに取り組んでいる。また、新型コロナウイルス感染症から身を守る学習にも取り組んできた。</p> |
| 今後の対応 | <p>中学校の休日の部活動を段階的に地域移行する具体的な方法について検討を進める。</p> <p>歯と口の健康づくりのため、小学校におけるフッ化物洗口について、視察や研修会を実施する。</p> |
| 評価 | A |

| | |
|-------|---|
| 事務事業名 | 4－8 郷土学習・自然体験学習の充実 (地域に根ざした体験活動による教育の推進) |
| 事業の目的 | 自発的に物事にに関わり、主体的に学ぶ力を育むため、体験活動を進める。地域に根ざした体験活動とし、児童生徒の郷土愛を育む。 |
| 事業の実績 | <p>主な取組等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生が創る未来の森事業 820,000 円 ・自然体験事業 2,981,137 円 ・総合学習活動補助 845,000 円 |
| 事業の概要 | <p>各校とも、総合的な学習の時間や行事などで、児童生徒が郷土に愛着を感じる取組を行っている。</p> <p>小学校では、校区探検、自然体験学習、山の学習など地域の自然や歴史、産業などについて体験的に学んでいる。中学校でも自然体験学習のほか、職業についての学習にも取り組んでいる。なお、これらの活動には、大杉谷自然学校をはじめ、地域の方に特別講師として指導をいただくなど、支援や協力を得て実施している。</p> <p>小学校の宿泊体験活動については、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、規模縮小を余儀なくされたが、デイキャンプや川遊び等を通じて、郷土の自然をたっぷりと体験することができた。</p> <p>中学校では、鮎の串打ちや友釣りなどの学習と体験を実施し、自然とのふれあいや地域の良さを改めて感じることもできた。</p> |
| 今後の対応 | <p>大杉谷自然学校や地域の方々に特別講師として支援や協力を依頼し、体験活動等を通して地場産業や自然の尊さを学習することで、児童生徒の郷土愛を育み、将来の地域を担う人材の育成に努める。</p> <p>社会科の副読本「たんけん！はっけん！大台町」の内容の見直しに着手する。</p> |
| 評価 | A |

| | |
|-------|--|
| 事務事業名 | 4－9 安全で安心な学びの場づくり |
| 事業の目的 | 児童虐待、いじめ、不登校や災害時等に対応できる危機管理体制を整え、安全・安心な学校づくりを進める。 |
| 事業の実績 | <p>主な取組等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関係機関と連携した児童虐待、いじめ、不登校への対応 ・ 教育相談の実施 ・ 危機管理体制の確立 |
| 事業の概要 | <p>児童虐待等の事例や疑わしき事例があった場合は、町民福祉課・民生児童委員と連携を図りつつ、警察署や児童相談所を含め連携し、情報の共有を図って事案に対応している。</p> <p>各校では「いじめ防止基本方針」に沿って、未然防止や問題が生じた場合の対応を行っている。いじめ等の問題が起こった時には、迅速かつ計画的にケース会議を開き、組織的に早期に対応することで、解決を図っている。</p> <p>不登校等の問題については、奥伊勢教育支援センターと連携し、児童生徒の心のケアから、保護者や教員を対象にした教育相談活動を行っている。</p> <p>また、児童生徒、保護者、教職員を対象に、スクールカウンセラーによる相談の機会を設け、支援につなげている。</p> <p>消防署と連携した避難訓練の実施や職員会議などを通じ、教職員全員が危機管理マニュアルの内容と非常時における役割を確認している。また、きずなネットを活用し、保護者への緊急時の連絡や情報共有を図っている。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、児童生徒の健康観察を保護者と連携して細やかに実施してきた。健康観察の結果を担任と養護教諭が共有し、学校における感染防止対策の徹底や保護者への啓発を実施した。</p> |
| 今後の対応 | 各校へのスクールカウンセラーの配置、奥伊勢教育支援センターの発達検査を含めた教育相談実施体制の確保を要望していく。 |
| 評価 | A |

| | |
|-------|--|
| 事務事業名 | 4-10 信頼される学校づくり |
| 事業の目的 | 各学校が目指す学校像を明らかにし、継続的な改善活動に努め、子ども・保護者・地域から信頼される学校づくりを推進する。 |
| 事業の実績 | <p>主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校経営の改革方針」の策定と学校評価の実施 ・学校評議員の意見の反映 ・関係機関と連携した子どもの健全育成 ・家庭等への情報発信 |
| 事業の概要 | <p>学校長は、「学校経営の改革方針」を年度毎に策定し、目指す学校像を明らかにし、学校の取組方針や行動計画などを示し、学校長のリーダーシップの下で学校教育を進めている。「学校経営の改革方針」は、PTA総会や懇談会等で保護者に説明している。</p> <p>各校では、児童生徒及び保護者に対するアンケートを年に1～2回実施し、それをもとに学校自己評価を行い、年度毎の成果や課題を明らかにし、次年度の学校経営に役立てている。また、各校で学校評議員やPTA役員による評価委員会を組織し、学校関係者評価を行っている。学校の自己評価に関係者からの意見も含めて「学校経営の改革の方針」の評価として保護者に公表している。</p> <p>各校で年間に2～3回学校評議員会を開催している。年度当初の学校経営方針の説明と意見聴取、中間期における児童生徒の様子把握、3学期末における学校経営の反省や次年度への意見聴取などの取組を行っている。</p> <p>各校で「学校だより」、「保健だより」、などを発行し、家庭への情報発信に努めている。学校の取組、学校行事、児童生徒の日常の様子などを伝えている。地域への発信は、学校毎に対応は異なるが、「学校だより」に限らず、広報おおだい、ケーブルテレビ、新聞といったメディアを活用しての情報発信にも努めている。</p> |
| 今後の対応 | 各校における「学校経営の改革方針」の策定と学校評価の取組を継続する。 |
| 評価 | B |

| | |
|-------|---|
| 事務事業名 | 4-11 教職員の能力の向上と職場環境の改善 |
| 事業の目的 | 教職員の指導力向上のため、研修を推進するとともに、働きやすい環境を整える。 |
| 事業の実績 | <p>主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画的・継続的な校内研修の実施 ・ 授業研究を中心とした研修の推進 ・ 勤務時間の適正化の推進 |
| 事業の概要 | <p>各校において、校内研修会で研究のねらいや重点を明確にし、各校の教育課題に応じた研修に計画的・継続的に取り組んできた。PDCAサイクルによる業務改善のため、振り返りを意識して、日常の教育活動の活性化に努めている。</p> <p>全教員が年1回の授業研究に取り組み、事後の授業検討を行い、わかる授業づくりと指導力の向上に努めている。</p> <p>また、教育課指導主事の訪問を要請しての授業研究や研修会、小中連携教育推進のための小中学校教員間での授業研究交流も行っている。</p> <p>教職員の指導力向上には、職場の安全管理や健康確保への取組が欠かせない。特に、教職員の過重労働による健康障害を防止するため、総勤務時間の縮減について取り組んだ。</p> <p>「月2回の定時退校日の設定」、「中学校における週2回（平日1日・日曜日）の部活動休養日の設定」、「職員会議の時間短縮やペーパーレス化」などにより、年次有給休暇等の取得日数の増加や時間外労働時数の抑制につなげている。</p> |
| 今後の対応 | <p>教員の指導力向上に向け、指導主事の活用を継続する。</p> <p>南勢教育支援事務所の指導主事訪問も活用し、授業研究においては、できる限り指導案の事前検討から指導主事に関わる形にしていきたい。</p> <p>中学校における時間外労働時数の縮減は、部活動などにより難しい面があるが、部活動の地域移行と併せて引き続き検討する。</p> |
| 評価 | B |

5. 生涯学習の成果と点検・評価

| | |
|-------|---|
| 事務事業名 | 5-1 図書館の運営 |
| 事業の目的 | 町民の生涯学習の進展、調査研究等に資するため、図書館を適正に運営する。 |
| 事業の実績 | <p>主な取組等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書購入費 1,845 冊 3,388,520 円 ・ 蔵書冊数 44,902 冊 ・ 貸出冊数 47,121 冊 ・ 来館者数 10,671 人 ・ 学校図書室派遣 約週1回のべ113回 ・ 図書館イベント開催 34回 参加者 のべ810人 |
| 事業の概要 | <p>司書5名で、来館者への対応・貸出等のほか、選書や廃棄本の選定、読み聞かせ会など行事の開催、各公民館図書室への配本・整理等を実施し、図書館サービスの充実を図った。</p> <p>また、各小中学校の図書室へ司書を派遣し、蔵書の整理・展示・読み聞かせ・ブックトーク等を実施し、学校における図書館教育を支援した。大台町立図書館開館20周年記念事業を行い、図書館のPRを行った。</p> |
| 今後の対応 | <p>図書館の利用促進のため、ホームページ、広報紙、SNS等で図書館サービスの広報活動を継続する。また、イベントの開催等により、新たな来館者の発掘を行う。</p> |
| 評価 | A |

| | |
|-------|---|
| 事務事業名 | 5-2 公民館活動と文化活動の支援 |
| 事業の目的 | 公民館学級を開設し、心豊かで充実した生活を支援する。 また、文化活動の振興に資するため、大台町文化協会の活動を支援する。 |
| 事業の実績 | <p>主な取組等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館学級の開設 (内訳) 一般学級の開設 6学級 受講者のべ466名 高齢者学級の開設 受講者のべ105名 ・町文化協会補助金 支出なし |
| 事業の概要 | <p>公民館学級は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行いながら開講した。高齢者大学については、3年ぶりに実施することができた。</p> <p>自主グループの活動は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行いながら、活動再開するグループがあった。</p> <p>文化協会の活動は、コロナ禍により活動機会が減少し、休止状態になっており、補助金を支出することはなかった。</p> |
| 今後の対応 | 町文化協会は、コロナ禍の活動自粛、会員の高齢化により活動の継続が困難になってきており、町民の文化活動の支援の在り方について検討する必要がある。 |
| 評価 | B |

| | |
|-------|--|
| 事務事業名 | 5-3 子どもを育む環境づくり |
| 事業の目的 | 地域の方々の協力を得て、放課後や週末等の子どもたちの安全・安心な居場所づくりや体験の場を確保する。 |
| 事業の実績 | <p>主な取組等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後子ども教室推進事業委託料 1,388,461円 (内訳) <ul style="list-style-type: none"> リフレッシュ大台学園 509人 956,461円 大台町のびのびクラブ 380人 432,000円 ・青少年健全育成推進協議会補助金 752,000円 |
| 事業の概要 | <p>リフレッシュ大台学園に週末等の居場所づくり事業を委託し、親子の交流を深めながら、遊びや体験活動を通して、子どもたちの自主性や社会性を育む事業を展開した。</p> <p>また、NPO法人大杉谷自然学校に「大台町のびのびクラブ事業」を委託し、放課後を有意義な教育活動の場として活用し、子どもたちに環境教育や地域の文化を学ぶ機会を提供した。</p> <p>青少年健全育成協議会は、新型コロナウイルス感染症の影響により事業を縮小した地区もあったが、文化祭、味噌作り、ミニ門松づくりなどの地区の特性を生かした事業を実施した。</p> |
| 今後の対応 | 有意義な教育活動の場として、環境教育や地域の文化を学ぶ活動を継続する。 |
| 評価 | A |

| | |
|-------|---|
| 事務事業名 | 5-4 人権教育の推進 |
| 事業の目的 | 町民一人ひとりの人権が擁護され、「明るく住みよいひとにやさしいまち」を実現するため、人権尊重の精神に貫かれた人間の育成を目指す。 |
| 事業の実績 | <p>主な取組等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町人権教育研究協議会補助金 382,900円 ・中高生の集い 新型コロナウイルス感染状況を見ながら2回実施 |
| 事業の概要 | <p>町主催の人権フェスティバルに積極的に教職員や町職員等が参加した。宮川中学校区の「LGBTQ」に関する取組を展示した。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、三重県人権・同和教育研究大会は全体会会場での映像を各地のモニター会場でライブ配信し、全体会が実施された。分科会については、南勢志摩7市町で実施された。また、中高生を対象とした人権学習会「中高生の集い」は、感染状況を見ながら2回開催した。次年度につながる学習会となった。</p> |
| 今後の対応 | 引き続き、人権教育は、学校教育・社会教育の両分野ともに重要な課題の一つとして取り組む。 |
| 評価 | B |

| | |
|-------|---|
| 事務事業名 | 5-5 環境教育推進のためのフィールドミュージアム事業 |
| 事業の目的 | 郷土の自然に根ざした体験活動による環境教育を推進し、自然を大切にする心と郷土愛を育み、地域に愛着をもって活躍できる人材の育成を図る。 |
| 事業の実績 | <p>主な取組等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境教育業務委託料 3,670,000 円 (内訳) ・森っ子クラブ川っ子クラブ事業 123人 910,000 円 ・おおだい森のようちえん事業 184人 920,000 円 ・わくわくサマーキャンプ事業 198人 1,360,000 円 ・大台町・東員町子ども交流事業 28人 140,000 円 ・熊野古道散策事業 59人 340,000 円 ・フィールドミュージアム推進事業補助金 3,000,000 円 |
| 事業の概要 | <p>宮川流域をフィールドにして、小学生による体験活動を中心とした環境教育事業を実施することにより、子どもたちに自然の大切さや豊かさを認識してもらい、愛郷心を育てることができた。</p> <p>3年ぶりに大台町・東員町子ども交流事業を実施し、東員町の子ども達と交流することができた。</p> <p>新たに大台町にある熊野古道についての講演会や散策を実施することにより、熊野参詣道の歴史を知り関心を高めた。</p> <p>業務を委託したNPO法人大杉谷自然学校は、大杉谷地域を中心に地域の自然・人・文化を活かした環境教育プログラムを提供する団体であり、その育成を図るため、補助金を交付し運営を支援した。</p> |
| 今後の対応 | 引き続き、町内の小学生を中心とした自然環境教育の充実を目指す。 |
| 評価 | B |

| | |
|-------|---|
| 事務事業名 | 5-6 二十歳の集い |
| 事業の目的 | 自らの努力で人生を切り拓こうとする二十歳を祝い励ますために「二十歳の集い」を開催する。 |
| 事業の実績 | <p>主な取組等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者66名（対象者94名） <p>日時 令和5年1月8日（日） 会場：グリーンプラザおおだい</p> |
| 事業の概要 | 平成14年4月2日から平成15年4月1日までに生まれた本町在住者または本町の小・中学校の卒業者を対象として開催した。 |
| 今後の対応 | <p>郷土を思う心を育むとともに、同級生が集まり、思い出に話が弾むよい機会として継続する。</p> <p>なお、民法が改正され、令和4年4月1日から、成年年齢が20歳から18歳に変更されたが、大台町では「二十歳の集い」として20歳を迎える方を対象に開催していく。</p> |
| 評価 | A |

| | |
|-------|--|
| 事務事業名 | 5-7 文化財の保護 |
| 事業の目的 | 町内に残された文化財を適正に保存管理し、次世代に継承する。 |
| 事業の実績 | <p>主な取組等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財保存会への補助 (内訳) ・上三瀬史跡保存会 215,520 円 ・三瀬砦跡保存会 80,000 円 ・出張遺跡保存会 20,000 円 |
| 事業の概要 | 保存会へ負担金を支出することにより、史跡等の維持管理を行った。 |
| 今後の対応 | <p>町内の史跡等を保存していくため、保存会の協力を得ながら継続して管理を行っていく。</p> <p>収集している農機具等の郷土資料は、種別や数量の整理を行い管理していく。</p> <p>町内の熊野古道の世界遺産登録については、県の指導を受けながら手続きを進める。</p> <p>大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパークの更新手続きについては、協議会と連携し作業を進める。</p> |
| 評価 | D |

| | |
|-------|--|
| 事務事業名 | 5-8 スポーツ振興と健康増進 |
| 事業の目的 | 町民がスポーツに接する機会を増やし、体力向上と健康増進を図る。 |
| 事業の実績 | 主な取組等 ・町スポーツ協会補助金 950,000円 |
| 事業の概要 | 大台町B&G海洋センターのトレーニングルームの活用を促し、町民の体力づくりと健康づくりの機会を創出した。 町スポーツ協会のスポーツイベントは、新型コロナウイルス感染防止のため水上カーニバルは中止したが、海洋センター敷地全体を活用しチャミーマラソンを実施することができた。また、美し国三重市町対抗駅伝大会では前年以上の成績を収めることができた。 |
| 今後の対応 | 新型コロナウイルス感染拡大による制限が緩和されていることから、例年開催してきたイベント等を実施する。 利用者が増加しているB&G海洋センターのトレーニングジムについては、健康ほけん課と連携しながら活用を促し、町民の健康促進を図る。 |
| 評価 | B |

【用語の説明】

標準学力検査（CRT）・・・8 ページ

学習指導要領に示された基礎的・基本的な内容の到達状況を、適切に把握できるように作成された学力検査です。学習の定着度や達成度を知るための一つの手がかりとなります。

みえスタディ・チェック・・・8 ページ

三重県教育委員会が作成した三重県オリジナルの学力検査です。

全国学力・学習状況調査・・・8 ページ

文部科学省が日本全国の小学6年生、中学3年生を対象として、学力・学習状況の調査を目的として実施しています。

TT・・・8 ページ

チーム・ティーチング（Team Teaching）の略称です。複数の教師がチームとなり、連携、協力して指導に当たることです。

ブックトーク・・・20 ページ

図書館司書等が、本の内容について簡潔に語ることによって、聞き手自身が読書の楽しみに気づき、読書意欲を向上させるための指導方法のひとつです。